

♥♥♥♥♥ことばを育てる親の会北海道協議会 ♥♥♥♥♥HSK ♥♥♥♥♥

HSK 会報

昭和48年1月13日第三種郵便物承認 HSK通巻第630号

(毎月10日発行) 2024年9月10日発行

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会 (HSK)

編集人 特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会 会長 山本光子

連絡先 〒060-0041 札幌市中央区大通東6-12

札幌市立中央小学校ことばの教室内

TEL011-241-2533 定価100円

♥♥♥♥♥2024.9.10 ♥♥ No.187 ♥♥♥♥♥

大人になった“子どもたち”に思う



特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会

理事 太田真知子

今年度、障害者差別解消法の一部改正が行われました。平成28年4月に施行された同法は障害者の差別の禁止と合理的配慮が法的に定められ、今年度合理的配慮が行政機関だけではなく一般の事業者にも提供義務と変更になりました。

こうした差別を解消し、多様性を認め個別に考えていこうという法的な理念の整備は着実になされようとしています。一方で、現実には法律を運用するのは人であって、どういう環境を作っていくのかが問われると、人とのコミュニケーションの中で作り上げられていくことが、生きやすくなることに近づくのではと思います。

私がことばの教室の仕事を離れてから10年余もたち、出会った子どもたちはほとんどが大人になっています。数年前から40代のAさんから時々メールが来るようになりました。会社員のAさんは、大学の通信教育で心理学を学び始め、卒業しさらに大学院を目指しているとのことでした。ある時「私のようなことばの問題を抱えていると仕事上苦勞したり不快感を与えたり、相手からパワハラを受けたりという人は少なくないと思います。このような人と健常者との職場でのコミュニケーションを研究してみたい」というメールがありました。

また、今年の春にはBさん親子から、学位記を手にした写真と手紙が届きました。すぐに就職をせずに適性にあった働き方、生き方を見つけていこうとしているようでした。お母さんからは「対人面で難ありですが、ことばの教室で過ごしたことが、“信じて頼ってもらいましょうな大人もいるんだ”と本人の心にきちんとあるんだと思っています」という文面のお便りが添えられていました。Bさんからは「働くというライフステージに上がることになりそうです。人生は答えのない問いかけだとは思いますが、楽しく生きていきたいです」と書かれてありました。

Aさんのこれまでの苦勞や葛藤を想像した時、人との接点にテーマを求めたのだとこれからの仕事と両立しながらの研究を嬉しく思いました。Bさんも新しいライフステージで自分に問

いかけながら楽しく生きようとした時、人とつながることを模索していくことになるのではとBさんの意欲を楽しみに思いました。Bさんのお母さんは、「まだまだ子育て終了！とはいかないようです」とも書かれていました。時折、当時のことばの教室で仲良くなったお母さんと交流しているようで、安心して話せる仲間の存在に親の会の原点を感じました。

親の会はいろいろな悩みを抱えたいろいろな世代のコミュニティでもあります。コミュニティの語源は「共感」だといいます。真に生きやすい社会になるよう親の会の役割はまだまだ！と感じています。

(Aさん、Bさんに関する記載は個人が特定できないよう多少内容を変えてあります。また、記載に関して本人から承諾をいただいています。)



日時： 2024年7月27日(土)10:00~11:30
参加者： 6名(教員1名、会長、副会長、理事3名)
内容： (1)今年度の各地区活動予定について
(2)道親の会事業に求めること
(3)その他
進行 齋藤寛子副会長

会長の挨拶のあと参加者が一人一人自己紹介をしました。互いの素性を少し理解した後、早速、(1)今年度の各地区活動予定について話し合いがされました。副会長が、札幌市の親の会の活動計画を報告され、定期総会のような硬い会議には講演をいれるなどの工夫を混ぜて実施すると参加者が増加する傾向にあると述べました。外部からの唯一の参加者であるA先生は、今年度から札幌市立小学校にあることばの教室の開設に立ち会われていることから、教室に親の会設置の有無の質問がされ、3名が入会されたとのことでした。副会長からはことばの教室の教員と保護者との信頼関係の構築が大切という助言がありました。これを契機にこれまでの各理事の経験が話されました。例えば、プレイルームにあるボールプールのボール磨きを企画することを通して教室内で保護者同士が対話しやすい環境から関係性が構築され、さまざまな教室内の課題を見つけ出したこと、ある教室では7人の児童の保護者たちが教室の親の会の役員として主体的に活動をするようになってから、さまざまな行事や行政への働きかけ等を担うようになっていったそうです。しかし、児童の通級指導の終了と共に役員の担い手が減少し、旧役員に依存するようになったとのことでした。現在でも関係性は継続し、苦楽を共にすることでさまざまことを学べたとのことでした。

次に、(2)道親の会事業に求めることについて、意見交換をしました。A先生からは、B市にある小学校ことばの教室を担当していた際、地区の親の会主催で知床に一泊旅行にいき、その夜の保護者との懇親会では、心おきなく話せてとても充実していたので、またやってみたいと考えているとのことでした。副会長からは、そのような企画がある時は北海道協議会から補助金を出せる場合もあるので、道親の会に相談してほしい、そこに親の会の存在意義があると述べられました。さらに、高校の通級に関する情報が乏しい現状では、親の会が情報提供できるというような働きを担っていき、啓発事業を活動の一つとして位置づいていきたいと話されました。C理事もことばに障害のある当事者の声を社会へ発信していくことが重要であると述べていました。D理事は「さっぽろ子どもの聞こえ相談ネットワークを作る会」が、耳鼻科等の待合室にチラシを置くなど、この領域における情報発信を積極的に活動していて参考になることが多いと述べていました。

最後に③その他について、C理事から現在、諸事情で休会している地区の親の会にも必要な情報が届くような配慮が大切ではないかと話されました。会長は、現在の若い世代の親御さんのニーズにあったかわりは重要であり、そのことをふまえた上で、親の会のメリットが伝わるようにしていきたいとのことでした。副会長からは、北海道協議会の会費の意義が十分に理解してもらえていない現状があり、そのことを打破できるような働きかけとして、休会中の親の会に関する理由を丁寧に収集していくことが重要と述べられました。

今回は人数が少ない交換会でしたが、参加者からは全員意見を発信することができ有意義な内容となったというコメントで終了しました。

(文責 理事 瀧澤 聡)



第 91 回理事会・第 92 回理事会

第 91 回理事会は、7 月 6 日(土)に札幌市エルプラザで開催されました。コロナ禍以来、初めて対面での理事会となりました。

「全国ことばを育む会」への補助金申請について検討されました。計画書の期日に間に合わず、実施後の報告も難しさがあるため、今年度の申請はしないこととなりました。

第 92 回理事会は、9 月 7 日(土)に Zoom 開催となりました。中間決算報告、地区研修会補助事業、会報作成計画、親の会パンフレット「両親指導の手引書」の販売方法、来年度の定期総会日時、全道大会の方向、ホームページの運用について話し合われました。

また、7 月に実施された WEB 意見交換会と、8 月に余市教育福祉村において開催された環境づくり親子デイキャンプの報告も行われました。

令和 7 年度定期総会は 5 月 17 日(土)に開催予定です。



臨床研修会報告



☆ 第148回言語障害臨床研修会 親の会共催（動画配信）

北海道言語障害児研究協議会
研究部 吉田 忍

今回は、「子どものことばの発達と大切にしたいかわり～実践での学びから～」と題し、国立特別支援教育総合研究所 研究企画部 主任研究員 谷戸 諒太氏にご講義いただきました。

幼児教育にかかわってこられた経験を通し、子どもや保護者に寄り添いながら、その育ちを支えていく上で大切なことについて事例を交えお話いただきました。ことばは人とのかわりの中で育っていくことから、そこに携わる大人の役割は

とても重要で、ことばだけではなく、心の中にある思いや考えへも視野を広げていくことの必要性について伝えてくださいました。谷戸先生との出会いを通して、子どもたちが人に伝える楽しさを身に付けていったように、日々子どもたちと関わっている大人は、子どもの気持ちに寄り添った支援をしていくことが求められていると思いました。


213名の申し込みがあり、その内親の会からは27名、非会員の保護者の方は7名でした。動画配信は7月18日～8月8日までの期間で行いました。

子どもとのかかわりをエピソードで描くこと

-「私」の見方・考え方の変化-

- 見えない子どもの思いを想像する、感じる
- 子どものことばの中にある思いを想像する、感じる
- 子どもとのかかわりを通して、私が感じた、子どものことばにない思いをことばにする
- 子どもや私の心の動きを捉え、ことばにして記録する
- 子どもの心、内面をみてかわる視点を大切にする

第148回 言語障害臨床研修会「子どものことばの発達と大切にしたいかわり～実践での学びから～」



<アンケートより抜粋>

- ・幼児教育経験者の話をなかなか聞くことがなかったのでためになりました。こういう発達を経て小学校へきたのだなあ、と思いました。記録はしていましたが、エピソード記述の視点で、私も書いてみようと思いました。ありがとうございました。
- ・「自らの実践を振り返ることの大切さ」心にとめておきたいと思います。
- ・こころの育ちを大切にできる道言協の実践にぴったりなお話でした。今までわかったつもりである種慣れてしまっていた様々なことを確認できました。谷戸先生ご自身が、聞き手を尊重し、ご自分の言葉を丁寧に使っていらっしゃる姿が印象的でした。「丁寧にかわる」ことを身をもって示されているように感じました。また「振り返り」は自分でも大切にしてきたのですが、どのように振り返るとよいかも詳しく教えて頂き勉強になりました。
- ・幼児期のことについて詳しく知ることができた。心の育ちには普段から気をつけているが、ことばの育ちでは、意味世界の敷き写しの大切さを感じた。
- ・子どもの心、ことばを育む、を視点においた実践のために、今、指導室に通っている子どもたちにとって、「かわりたい相手」になりたいなと思いました。
- ・松江市では特別支援幼児教室がかなり多く設置されていることにまず驚きました。北海道でも幼児から各町村でも支援を受けられるようになればと思います。幼児でこのような支援体制がない中では、小学校で初めて支援という話を聞く保護者も多くなります。小学校や中学校でも、谷戸氏のお話にあったような「一人一人」や「心の育ち」をよく考えていかなければとあらためて感じました。

今後も保護者の方や担当の先生方の参考になる研修を企画していきたいと思います。



夕張市ことばを育てる親の会



夕張市の親の会の活動は、年3回、親子研修（親子 DE 夜遊び・バス遠足）と、クリスマス会を実施しています。参加者同士が交流し、親睦を深める場となるように、そして、子どもたちには、集団活動でのマナールールを守り、普段経験できない体験を通級の皆で楽しむことを目的としています。

コロナ禍中でも、親の会活動の歩みを止めることなく、ソーシャルディスタンスや感染予防に十分努め、皆さんが楽しく、安心・安全に過ごせるよう、役員・職員・全員で協力しながら、企画・活動に努めてきました。コロナ禍中でも、参加される方が多く、改めて、親の会の活動の場が、子どもの成長と家族の思い出に必ず役に立っていることに気付かされました。

また、昨年から新たに「親子DE夜遊び」を実施しました。夏の期間中でも、夕張メロン農家さんが参加しやすい時間帯を狙い、夜の活動を試みました。

昨年の第一回目は、予想を上回り、118名の方が参加してくれました。

二回目の今年も、昨年の反省を活かし、教育委員会、一般社団法人らぶらすさん、特別養護老人ホーム清光園さんに協力していただきました。かつて、ことばの教室の通級児で、今は就労支援で働いている方にカレーを作って頂き、配膳もして下さいました。

いろいろな方が、この活動に賛同して協力して下さいました。素敵なお兄さん、お姉さんになって参加してくれた元通級児の中高生、保護者の皆さん、校長（室長）や教頭には、それぞれに担当を決め、お手伝いをお願いし、親子の交流も深めてきました。

今回、札幌からギターデュオ「ばせり」さんをお招きし、音楽を楽しむ時間を設けました。普段見慣れない楽器に触れ、リズムに乗ったり歌ったりと、音楽を身体全身で楽しみました。また、キッチンカーの「夕張マルシェ」さんが出店して下さい、夕張産の長芋を使ったクレープや、フロート等、夕張の美味しいものを届けてくれました。

最後は花火で盛り上がり、無事に終わることができました。協力して下さった皆さん、本当にありがとうございました。

これからも、子ども達の笑顔が見られることを楽しみに、皆で手を取り合って、充実した活動を歩み続けたいと思います。

夕張市ことばを育てる親の会 会長 藤本 理恵



※写真は昨年の行事のものです

図書紹介

特別支援教育と 親・親の会の在り方

跡部 敏之 著

NPO 法人 全国ことばを育む会 編集

定価 500 円



本書は平成 20 年 6 月に全国ことばを育む会が開催した全国研修会の講演資料を基に、両親指導の手引き書として書き加えられ翌年 5 月に発行されました。著者は、北海道の言語障害児教育の礎を築いた教育実践者であり、親の会創設当初から親御さんとの二人三脚で教室開設などに尽力され、今も顧問として、難しい局面での確かな助言をくださる跡部敏之先生です。

平成 19 年から本格実施となった特別支援教育は、新たに発達障害の子どもたちを「通級による指導」の対象に加え、「場による指導」から「一人ひとりの子どもの教育的ニーズ」に基づく教育への転換であると高らかにうたっています。著者は、これまでも「ことばの教室」においては、「通級による指導」によって今日発達障害といわれる子どもをふくめた「一人ひとりの子どもたち」の指導が続けられてきたゆるぎない実績に触れます。そして、「ことばの教育」とはことばを直すというレベルのことではなく、「人として生きる素地」を育成する理念を秘めていること、言語改善の技術ではなくもっと人間の内面に迫る教育的営みという意味を確認します。また、かつて言語病理学者 W. ジョンソンによって唱えられた「ことばの問題箱」理論は、現在の特別支援教育の「障害観」の基底となっている ICF モデルにつながるものと再評価しています。そのことによって二重の意味で言語障害が人の社会的存在を脅かす重大なことであることが一層浮き彫りにされます。また、言語障害教育の科学的フィールドが実に広く深いものであることから、短日的な研修では追いつかない「通級指導教室」担当教員の養成や研修をめぐる課題を控えめながら指摘しています。

親の会について、言語障害児の親・親の会は、子どもを真ん中においた三人四脚でことばの教室と歩調をそろえて進んできた歴史があること、そのことにより親と教師の信頼の絆が深まり、子どもに良い教育効果を与えてきたことは自明だとします。孤立しがちだった親が、学習会などを通して先輩の体験に学び安心して子育てする中から、やがて障害があるわが子に感謝するまでに成長されたたくさんの姿に、障害のある娘の母であったノーベル文学賞受賞者のパール・バックの「この子がいたから私もこんなに視野の広い優しい人間になれた、この子は私の宝。」ということばを重ね合わせています。

近年の親の会について、目標が見えなくなっているのではないかと危ぶみます。療育キャンプや研修会などの活動は「こどもたちの未来を創造する」(目標)のための手段であるとし、親たちが交流を通し、一緒に悩み、わかり合い、考え、行動することで個人の力では限界がある未来を築くことができる。今こそ原点に戻って、子どもを真ん中に親と教師と地域が一体となって未来を築く時との結びが、読後の胸にズシリと響いてくるのです。

(文責 理事 福島 美恵子)



事務局から



・8月18日(日)余市教育福祉村で親子日帰りデイキャンプが行われました。晴天に恵まれ自然に囲まれて真夏の一日をのびのび過ごしました。キャンプのようすは、次号でお知らせします。

・地区分担金の送金先は次の通りです。総会資料に同封した振込票をお使いください。
(ゆうちょ銀行のATMを利用して、通帳またはカードで振り込む場合のみ手数料が無料となります。現金による振込等の場合は手数料が発生しますので、ご負担をお願いいたします)
なお、会長交代に伴う名義変更手続きが終了するまで、下記送金先をお願いいたします。

・**準会員(事業に協力して下さる個人、法人、任意の団体)を募集しています。**
また協議会の事業に賛同して下さる方の寄付も大歓迎です。送金の場合は振込用紙の通信欄に「準会員会費」「寄付」とご明記ください。

郵便振替	口座番号 02790-5-□□44186 加入者名 NPO法人ことばを育てる親の会
郵便貯金 口座振込み	記号 19030 番号 32430171 口座名 特定非営利活動法人ことばを育てる親の会 北海道協議会
銀行	北洋銀行 北7条 支店(店番 312) 口座番号 3527965 受取人 特定非営利活動法人ことばを育てる親の会 北海道協議会 会長 福井 紀郎



HSK 会報 昭和48年1月13日第三種郵便物承認(毎月10日発行)

2024年9月10日会報187号(HSK通巻630号)

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

編集人 特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会

会長 山本 光子 定価 100円(会員分は会費に含む)

連絡先 〒060-0041 札幌市中央区大通東6-1-2

札幌市立中央小学校ことばの教室内 Tel.011-241-2533